

烏帽子山八幡宮・加茂春日神社



■大朝日岳 31.63km - 烏帽子山八幡宮 - 大沼浮島 31.63km

■大朝日岳 12.82km - 蔵高院 - 大沼浮島 12.82km

勝頂角

烏帽子山八幡宮

創建は寛治7年(1093)に源義家の弟である**加茂義綱**が祠を建立した事が始まりとされている。境内には烏帽子石と呼ばれる巨石がある。中世に入ると山岳信仰とも関係が深くなり烏帽子石には梵字や年号などが刻み込まれた。

祭神 応神天皇(おうじんてんのう) = 菅田別尊(ほむたわけのみこと)
三韓征伐の神功皇后の子。

菅原道真 鳴雷神



蔵龍山 蔵高院

蔵高院に安置されている地蔵は大日寺の地蔵と同じ木から掘り出されたと伝えられている。嘉永7年(1854)入定の即身仏「光明海上人」が祀ってある。発掘地はさらに入った峠近く。光明海上人の入定塚に並んで二つ、明真海、教真海の入定塚があるが未発掘である。光明上人の伝承には3人の行者の伝承が交じり合っている可能性がある。塚のある山道は湯殿山登山口の一つ、大日寺へと続いている。「道智道」という応



永年（1394～1427）に開かれた湯殿山への巡礼者のための道である。山形県西置賜郡白鷹町黒鴨544-1

左負角

大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初禰神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山容はピラミダル。山形県西村山郡朝日町。

備考

大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられる。

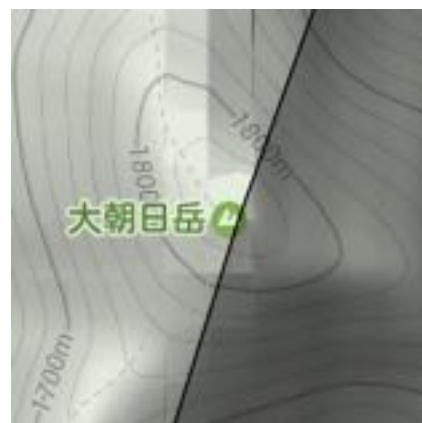
右負角

大沼浮島

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」とあると記されている。

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路にきた折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、「大富沼」が大沼なら元々は出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古い三角魔方陣はほとんどが稲荷神社ではなく大沼の島居の立つ「出島」（写真）が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になるにちがいない。



- 大朝日岳 58.15km - 浜山頂上 - 大沼浮島 58.15km
- 大朝日岳 58.26km - 春日神社 - 熊野神社跡地（推定） 58.26km
- 大朝日岳 58.08km - 浄禅寺 - 熊野神社跡地（推定） 58.08km
- 大朝日岳 34.52km - 白髭神社 - 熊野神社跡地（推定） 34.52km

勝頂角

浜山頂上（春日神社の裏山）

※浄禅寺と二等辺三角形になる。鶴岡市加茂

加茂春日神社

社伝によれば清和天皇の御宇貞観7年（865）大和国奈良春日神社より勧請し、春日大明神と称したと云われる。奈良春日大社の祭神は、鹿島神宮の武甕槌命、香取神宮の経津主命様、枚岡神社の天児屋根命様・比売神。鶴岡市加茂



浄禅寺

文明6（1474）年浄土真宗第8世中興蓮如上人の弟子・寂蔵坊が越前吉崎（福井県）より聖徳太子尊像を与えられて加茂の浦に着き、高館山の麓の通称・東山に草庵を結び「寂蔵寺」と称した。寛文12（1672）年、本願寺の寂如法主より「浄禅寺」の寺号を賜った。詩人・茨木のり子の菩提寺。

鶴岡市加茂字大崩325

勝・負頂角

白髭神社

祭神/武内宿禰、素盞鳴尊、和氣雷命

『山形県の板碑文化』によれば「此の白髭神社は元白髭明神で、元文元年七月出版の米沢事跡考によれば、猿田彦命を祭り伊達家の家臣・近江国滋賀郡出身小松某の祖が勧請した旨記されているが、元来同神は大陸から帰化して近江を開墾した氏族の祭神であったものを本地垂迹説から猿田彦に転じたものである。近江国の同神は江若鉄道白鬚駅前にある古社である」と説明している。また『東置賜郡史』には、祭神は武内宿禰であると記載されている。白髭神社は高島町には三社あり、『東置賜郡史』によれば、中川村中山の郷社・白髭神社も「和同七年（七一四）近江国白髭神社の神霊を勧請し社殿を建立したものなりといふ」としている。白髭神社が近江からの勧請であるということからすれば、近江出身の人々がこの地に多く移住していたことが考えられ、前項の新羅神社も或いは近江出身の人々と係りがあるのかも知れない。

<http://www.shiga-miidera.or.jp/serialization/shinra/108.htm>



負角

熊野神社

神仏分離令の折に浮島稲荷神社に合祀。山形県西村山郡朝日町大沼

備考

位置が不確定。「あさひまちエコミュージアム」で古地図を見つけたがアバウト過ぎてわからない。大沼浮島の女神に対して男神の熊野神が対で祀られていたとすれば重要な存在。おそらく、大朝日岳を基点に、鶴岡加茂の春日神社からと、高島町白髭神社からコンパスを当てるとこの位置がぶつかるので、ここに熊野神社もしくはなにかほかの神社があったと思われる。



備考

蝦夷の大聖地「大朝日岳」と「大沼浮島」を封じている神社を探すと南陽市赤湯の烏帽子山八幡宮が見つかった。ここは、後三年の役のアと八幡太郎義家の弟が創建。直前には出羽の守が暗殺される事件が起きている。武神菅田別尊は勝頂角に座する代表格の神。ただ、境内の烏帽子岩もびつたり位置。近くには白竜伝説の白竜湖もある。元々は磐座信仰の出雲系蝦夷の聖地だったのだろう。

そして反対の日本海側に中心線を伸ばすと鶴岡市加茂に行き着いた。きっと天孫系の賀茂氏がいたのだろう。すぐに、朝日岳と大沼を封じる勝頂角にびつたり武神春日神社を見つけてときめいたが、コンパスが合わなくて落胆した。しかし、背後の浜山頂上がびつたり合わさった。きっと春日神社や浄禅寺の聖地になっているのだろう。ただ、立派な春日神社そのものもきっと関わっているはずと調べているうちに、大沼浮島稲荷神社に明治に合祀された熊野神社があったことを思い出した。熊野は出雲系クナト神らしいので浮島稲荷神社よりも古い歴史を持つと考えられる。おそらく筆者の推定地で間違いな。対極になる神社を探していると、高島にピラミッドのような竹森山を見つけた。「竹」は丹波出雲族の象徴。そして白髭神社の由緒もまさに猿田彦・新羅の出雲系。コンパスを当てると、アバウトな古地図の位置にほぼ一致した。

源義家の弟が、後三年の役の後、蝦夷の聖地朝日岳・大沼を封じるために烏帽子山八幡宮を作った。義家が制圧した地に数多く建立した八幡神社。制圧した蝦夷の神々の神威や皆殺しされた者たちの怨恨が再び及ばぬよう武神菅田別尊を使って封じさせた。源氏ももとは新羅系だが、天孫（百済）vs出雲（新羅）の構図ははるか国譲り時代の昔の話、勝ち組天孫族の元、負け組出雲族が働いてきた構図なのだろう。

大和朝廷が蝦夷を併合したのが802年。835年に朝廷を脅かした空海入定。850年の出羽地震で津波が庄内を襲い酒田城輪柵に迫る。大地震や噴火が相次いだ平安大地震のはじまり。863年に越中・越後地震。864年



に円仁没。富士山や阿蘇山も噴火している。加茂春日神社は865年に作られている。朝廷が蝦夷制圧後に大朝日岳と大沼浮島の神威を感じて、武神をおいて沈めようとしたのではないか。しかし、その後も大分、兵庫、宮城と大地震は続き、さらに円仁の弟子安慧も死に、ついに朝廷は870年に大朝日岳の諏訪神に従五位下を授けている。しかし、その甲斐なく翌年、今度は鳥海山が大噴火を起こし、鹿児島や阿蘇でも大地震が起こった。この貞観年間中、朝廷は早良親王の霊を鎮め封じるために鬼門に崇道神社も創建している。その鬼門の先には大沼浮島がある。朝廷がそうとうに制圧した蝦夷を恐れた時代だったといえる。詳しくは平安時代/怨霊菅原道真の頁をご覧ください。



線上には、鶴岡市の加茂と白鷹町の黒鴨地区、烏帽子山八幡宮の創立者は加茂義綱。竹森山は高畠町。両神を鎮めるために秦系賀茂一族がこのしくみを施してきたのだろう。